

VI 各公園の具体的な取組み

1. 各公園ごとの取組み

各公園の活性化に向けて、基本コンセプトや6つの取組方針と3つのステップによる展開を踏まえ、各公園ごとの具体的な取組みについて、次のとおりとりまとめました。

<花フェスタ記念公園>

	H28	H29	H30	H31	H32
① 地域に愛される公園づくり					
地元住民が来園しやすい公園づくり					
・遠足の誘致や「花育」をはじめとする教育プログラムの開発による学校団体利用の促進	→				
・市民花壇の設置	→				
・利用しやすい開園時間の設定	→				
・利用者サービス、ホスピタリティの向上	→				
子どもから高齢者まで幅広く利用される公園づくり					
・遊具の拡充や「森のようちえん」等のイベントによる子どもの遊び環境の充実	→				
・「授乳室」や「多目的トイレ」の増設等による子育て支援強化	→				
・車いす利用者が鑑賞・手入れしやすい花壇整備、園芸療法の場の提供等、ユニバーサルデザインの促進	→				
・散策等の健康増進に資する緑地空間の提供	→				
・わかりやすいサインの整備	→				
人々が集う地元イベントの誘致					
・夏まつりや市民マラソン等、周辺自治体や地元自治会等との連携イベントの拡充	→				
② 四季折々の魅力を持つ公園づくり					
人々を魅了する景観創出					
・質の高い花壇等の景観創出	→				
・バラ科の植物を中心とした多様な修景の展開	→				
・記念撮影に適したポイントの整備	→				
・「バラのベルベデーレ」(展望デッキ)からの景観を意識したバラ園の魅力創出	→				
・スローモビリティによるバラ鑑賞	→				
・眺望を意識した空間づくり	→				
・「花のミュージアム」における屋上緑化の展開	→				

	H28	H29	H30	H31	H32
季節を感じる植栽の展開					
・四季を通じた花の植栽や演出	→				
・花のある暮らしの提案による花の魅力発信	→				
季節に応じた企画の展開					
・ナイトローズ、モーニングローズ等の開園時間拡大によるバラ園の新たな魅力創出	→				
・イルミネーションによる冬季集客強化				→	
閑散期を底上げた通年型の公園づくり					
・歳時記に応じたきめ細かなイベントの実施	→				
・持続的な公園経営のための収益向上策と底上げ対策の実施	→				
天候に関係なく楽しめるイベント					
・雨天時でも楽しめる室内イベントの充実	→				
・雨・雪を活用したイベントの開催			→		
③ 地域の振興に資する公園づくり					
観光拠点としての事業展開					
・「春のバラまつり」「秋のバラまつり」の充実	→				
・バラ科の植物を中心とした多様な修景の展開【再掲】	→				
・記念撮影に適したポイントの整備【再掲】	→				
・入場ゲートの花修景によるウェルカム感の演出	→				
・多言語マップ、多言語ガイド機能の充実		→			
・ソーシャルネットワーク等の活用による公園の魅力発信とイベント情報の提供	→				
・地域資源をつなぐ周遊モデルコースの構築	→				
・利用者サービス、ホスピタリティの向上【再掲】	→				
・公園の魅力を端的に表す公園名称への変更		→			
・Wi-Fi スポットの整備による来園者の利便向上	→				
コンベンションやイベントの誘致・開催					
・イベント誘致に向けた「プリンセスホール雅」の機能向上	→				
・花き産業の商取引・見本市の場となる「ぎふフラワーフェスティバル」等の開催	→				
・花き園芸や造園等の団体と連携した全国的な会議の誘致		→			
公園オリジナル商品の開発や飲食物販等の充実					
・岐阜の魅力をもPRできる飲食物販の強化	→				
・バラ関連商品の開発	→				
・キッチンカーグランプリの拡充等、飲食の提供メニューの充実と魅力向上	→				
・東ゲート付近における朝市の開催		→			

		H28	H29	H30	H31	H32
産業振興としての利活用						
・アメリカ・ポートランドを参考に、企業誘致等の戦略として公園を活用						→
・花き産業の商取引・見本市の場としての活用		→	→	→	→	→
・県産品の「ショー・ウィンドー」として、特産品のPR促進の場の提供		→	→	→	→	→
④ 地域資源をつなぐ公園づくり						
世界遺産等の地域ブランドとの連携						
・人道の丘公園等、「杉原リスト」（世界の記憶申請中）関連施設と花フェスタ記念公園の相互PR		→	→	→	→	→
・地域資源をつなぐ周遊モデルコースの構築【再掲】		→	→	→	→	→
・茶室を活用した陶芸文化や花き文化との連携		→	→	→	→	→
流域の魅力発信						
・園内の「アンネのバラ園」と人道の丘公園の連携による「平和」のメッセージの発信イベントの開催						→
・木曽川・飛騨川流域の周辺自治体のPRブース等の設置による流域の魅力発信		→	→	→	→	→
・ソーシャルネットワーク等の活用による公園の魅力発信とイベント情報の提供【再掲】		→	→	→	→	→
・プロジェクション・マッピングによる流域の魅力のPR						→
流域の地域資源を体験できるプログラムの提供						
・「みたけ華ずし体験」等の体験プログラムの提供		→	→	→	→	→
・環境教育プログラムの開発・提供		→	→	→	→	→
⑤ 人を育む公園づくり						
各公園の特徴を活かした人づくり						
・花き振興の拠点としての「花育」の推進・展開		→	→	→	→	→
・国際園芸アカデミーの一部機能の園内での展開		→	→	→	→	→
・農業高校等の教育機関との連携		→	→	→	→	→
・環境教育プログラムの開発・提供【再掲】		→	→	→	→	→
・バラ園の質・量ともに持続的な管理運営ができる人材の育成		→	→	→	→	→
・公園サポーターの充実		→	→	→	→	→
・バラの育成管理・装飾体験プログラムの開発						→
・園芸相談に対応できるプログラムの提供						→
⑥ 多様な主体が参画する公園づくり						
地域住民との協働						
・遠足の誘致や「花育」をはじめとする教育プログラムの開発による学校団体利用の促進【再掲】		→	→	→	→	→

VI 各公園の具体的な取組み <花フェスタ記念公園>

	H28	H29	H30	H31	H32
・市民花壇の設置【再掲】			→	→	→
・夏まつりや市民マラソン等、周辺自治体や地元自治会等との連携イベントの拡充【再掲】	→	→	→	→	→
・遊具の拡充や「森のようちえん」等のイベントによる子ども遊び環境の充実【再掲】	→	→	→	→	→
企業との協働					
・花フェスタ記念公園パートナーシップ企業等による企業花壇の展示、職場研修、福利厚生事業等の公園利活用		→	→	→	→
・民間資本の導入の検討		→	→	→	→
NPO、ボランティアとの協働					
・NPO、ボランティア活動の支援と活動の場の提供	→	→	→	→	→
・公園サポーターの充実【再掲】	→	→	→	→	→